

国語

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
1 漢字や仮名を文章の中で正しく使うこと。 2 主語と述語、文と文との接続などについて理解し、正しく書き表すこと。	自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫すること。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	(ア) 1 長音、拗音、促音、撥音などを正しく表記することが課題である。 (ア) 2 助詞「は」「へ」「を」を文の中で正しく使うことに課題がある。 (イ) 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることに課題がある。	(ア) 1 折に触れて、長音、拗音、促音、撥音の使い方を例示する。 (ア) 2 文を書き始める前に、「わたしは」「学校へ」「おとうとを」など、使い方を例示する。 (イ) 自分が経験した出来事などの事実の順序を整理し、そこに自分の思いや考えを付け加えるようにさせる。	・毎単元  ・毎単元  ・毎単元、特に「書くこと」の単元で重点的に指導。	
第2学年	(ア) 1 既習の漢字を文章の中で正しく書くことに課題がある。 (ア) 2 助詞「は」「へ」「を」を文の中で正しく使うことに課題がある。 (イ) 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることに課題がある。	(ア) 1 これまでに習った漢字を板書する際、間違いやすい箇所を確認し、ノートや作文の中で、日常的に使わせる。 (ア) 2 文を書き始める前に、「わたしは」「学校へ」「おとうとを」など、使い方を例示する。 (イ) 自分が経験した出来事などの事実の順序を整理し、そこに自分の思いや考えを付け加えさせる。	・毎単元  ・毎単元  ・毎単元	
第3学年	(ア) 1 既習の漢字を文章の中で正しく書くことに課題がある。 (ア) 2 短文は書けるようになってきたが、接続語を適切に使うことに課題がある。 (イ) 感想を書く際に「楽しかった」「むずかしかった」など、抽象的な書き方にとどまってしまうことがある。	(ア) 1 新出漢字の学習の際に、漢字のへんやつくり注目させ、文字の成り立ちを意識させる。 (ア) 2 文章読解の際に接続語に注目させ、どのような効果があるのかを確認し、自分で文章を書く際にも活用させる。 (イ) 文章を書く前に「〇〇を読んで、△△と感じた」など、例文を示し、文章を具体化させる。	・毎単元  ・毎単元  ・毎単元	

<p>第4学年</p>	<p>(ア) 1 既習の漢字を文章の中で正しく書くことに課題がある。</p> <p>(ア) 2 主語と述語の関係がねじれてしまう。</p> <p>(イ)自分の考えとその理由の書き表し方を工夫することに課題がある。</p>	<p>(ア) 1 3年生までに習った漢字を教室に掲示し、ノートや作文を書く際に、確認させる。</p> <p>(ア) 2 一文を短くし、主語と述語を意識して文章を書かせる。</p> <p>(イ)「自分の考えは、〇〇です。」「それは～だからです。」「例えば□□があります。」など、文型を示し、書かせる。</p>	<p>・毎単元</p> <p>・毎月</p> <p>・毎単元、特に「書くこと」の単元で重点的に指導。</p>	
<p>第5学年</p>	<p>(ア) 1 既習の漢字を正しく書いたり、文や文章の中で使ったりすることに課題がある。</p> <p>(ア) 2 文の中で語句の係り方を理解することに課題がある。</p> <p>(イ)目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることに課題がある。</p>	<p>(ア) 1 東京ベーシック・ドリルを活用して授業の最初に既習の漢字を復習する時間を設ける。</p> <p>(ア) 2 「読むこと」の学習において、文章の中で用いられている接続語や修飾語などの使い方や効果に着目させる。</p> <p>(イ)「書くこと」の学習において、情報の収集や構成メモの作成など、文章を書く前に内容の準備や検討が十分できるように指導計画を立てる。</p>	<p>・毎単元</p> <p>・11月、1月</p> <p>・2月</p>	
<p>第6学年</p>	<p>(ア) 1 既習の漢字を文章の中で正しく書くことや文章を正しく理解するための語彙力に課題がある。</p> <p>(ア) 2 原因と結果など、情報と情報の関係について理解し、書き表すことに課題がある。</p> <p>(イ)筋道の通った文となるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題がある。</p>	<p>(ア) 1 日常的に辞書を使用し、確認しながら既習の漢字を使わせたり、言葉の意味を確かめさせたりする。</p> <p>(ア) 2 説明的文章の読みや文章を書くための構成を考えると、「主張」「理由」「事例」などの用語を使い、情報の意味やつながりを考えさせる。</p> <p>(イ)説明的文章の構成や展開を読み取り、それをもとにして書かせる。</p>	<p>・毎時間</p> <p>・単元ごと</p> <p>・単元ごと</p>	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

1年生	学習アプリケーションで発表する内容を画像で記録し、学級全体で共有し伝え合う。
2年生	学習アプリケーションを活用し、読み仮名の付いた文を使って、読み取りを行う。その際に、線を引いた場所などを、グループで見合い、自分の考えを伝える際の手だてとする。
3・4年生	学習アプリケーションを使って、要約する文章や意見文などの推敲を行う。友達の文章をタブレット端末上で共有し、自分の作品と比べたり、意見を伝えたりする。
5年生	思考ツールを使って自分の考えを整理したり、学習アプリケーションの共有機能やフィードバック機能を活用して意見を交流したりする。
6年生	思考ツールを使って自分の考えを整理したり、文章構成・推敲に生かしたりする。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

1年生	毎時間、その日の学習のめあてをもたせ、学習計画を確認する。
2年生	単元を見通した学習課題を設定し、学習計画を立ててから活動に入る。
3年生	単元の初めに学習目標を児童と一緒に作成する。その後、学習計画を立て、学習の流れを把握させる。
4年生	単元の初めに学習計画を確認し、学習の流れを把握させる。
5・6年生	単元の導入で付けたい力や高めたい力を児童と確認するとともに、学習計画を作成して単元の流れやゴールを明確にする。

社会

社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
様々な資料を適切に読み取り、調べたことをまとめること。	課題解決に向け、社会的事象の特色や相互関係について、根拠をもって自分の考えをまとめること。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	(ア) 地図の中で八方位を使って位置を説明することに課題がある。  (イ) 調べたことをまとめる際に、読み手に伝わりやすい方法や表現を選択することに課題がある。	(ア) 市内の地図を見る際には、必ず北を確認し、位置を説明するときには、「〇〇は、△△から見て、南東にあります。」のような例文を示す。 (イ) 調べたことをすべて記述するのではなく、特に必要な情報は何かを、グループで話し合い、取捨選択させてからまとめを行わせる。	・9月から  ・各単元の終末	
第4学年	(ア) 資料の内容を読み取り、情報を整理することに課題がある。 (イ) 調べたことを基に、自分の考えをまとめることに課題がある。	(ア) 事前に読み取らせる資料を明確にし、友達と共有する時間をとる。 (イ) 学習問題に対する自分の考えを書く際にキーワードを提示し、グループで話し合ったり、説明したりする時間を設定する。	・毎単元  ・毎時間	
第5学年	(ア) 課題を解決するために調べる際、必要な情報を選択することに課題がある。  (イ) 学習問題に対して、自分の考えをまとめ、表現することに課題がある。	(ア) 知りたいことを明記し、調べて分かったことが知りたいことに対応しているか確認させる。出典を必ず書かせる。 (イ) 調べたことを整理・分析するための視点を明示し、自分の考えをまとめやすくさせる。	・毎時間  ・単元ごと	
第6学年	(ア) 課題を解決するために調べる際、複数の資料を比較し、必要な情報を選択することに課題がある。  (イ) 学習問題に対して、自分の考えをまとめ、表現することに課題がある。	(ア) 知りたいことを明記し、調べて分かったことが知りたいことに対応しているか確認させる。出典を明記した上で、互いに選択した情報を比較し、よりの確なものを選ばせる。 (イ) 資料から分かることを整理・分析するための視点をみんなで確認してから自分の考えのまとめに取り組ませる。	・毎時間  ・単元ごと	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 3年生 地図の学習の際に、地図のアプリケーションを使用し、一人一人が自分のいる位置と学習する地域について理解できるようにする。調べたことをまとめる際に、共有機能を使って、互いの考えの共通点や相違点に気付かせる。
- 4年生 問題解決のために資料を収集し、それらを学習アプリケーション上でまとめる。思考ツールなどを使って調べたことを分類したり、まとめたりして自分の考えを友達と共有する。
- 5年生 思考ツールを使って、調べたことを整理したり、学習アプリケーション上で、学習問題へのまとめの意見文や CM 作りなどを行ったりし、分かったことや考えたことを伝え合う。
- 6年生 問題解決のために集めた復習の資料（教科書、資料集、地図帳、Web ページ等）を学習アプリケーション上で整理・分類してまとめたり、分かったことや考えたことを伝え合ったりする。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 3年生 単元の初めに児童と一緒に学習問題を作成する。単元末では、学んだことを手掛かりに、学習問題の答えをまとめ、振り返る。
- 4年生 単元の始めに学習の目指すゴールを明確に示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。
- 5年生 何のために調べているのかを明確にするとともに、学習問題に対する一人一人の考えを伝え合う時間を確保する。学習問題のまとめで、自分の学びを振り返り、自分の成長に気付かせる。
- 6年生 毎時間のめあてを明確にして情報を集めたり分析したりするとともに、意見交換を通して、互いに考えが広がったことを実感させる。学習問題のまとめで、自分の学びを振り返り、自分の成長に気付かせる。

算数

算数科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数の構成や計算の意味を理解し、正しく計算すること。	筋道を立てて考察し、意味を考えて立式すること。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	(ア) 繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算の計算に課題がある。 (イ) 問題文を読み、意味を考えて立式することに課題がある。	(ア) 計算ブロックなどの具体物を活用して、10のまとまりを意識させる。 (イ) 文章題での立式の意味を理解できるよう、どんな場面か話し合ったり、ノートに図をかいたりする。	・11月 12月 ・毎単元	
第2学年	(ア) 繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算の計算に課題がある。 (イ) 文章題において、自分で読み解き、立式する力に課題がある。	(ア) 位取り板やブロック、お金カードなどを活用して、十進法を意識させる。 (イ) 文章題の指導の際に、数値の大きさや「あわせて」「ちがいは」などの、立式の根拠になる言葉に注目させ、文に線を引かせてから立式させる。	・9月から ・毎単元	
第3学年	(ア) 九九の習得が不十分なことから、大きい数のかけ算や、わり算でつまずきが見られる。 (イ) 文章題の意図を捉えて立式する力に課題がある。	(ア) 授業の冒頭に既習事項(九九)の復習を行う。また、習得が不十分な児童には、九九表を渡すなどの支援を行う。 (イ) 立式する前に重要な数字にアンダーライン、聞かれていることに波線を引かせ、情報を整理させる。また、それでも分からないときは図式化させる。	・9月から ・毎単元	
第4学年	(ア) わり算やかけ算の筆算の定着に課題がある。 (イ) 文章問題において、問われていることは何かを読み取り、立式につなげることに課題がある。	(ア) 授業の冒頭に既習事項の復習を行う。学習した内容のポイントを掲示し、問題を解く際に活用させる。 (イ) 問題場面をテープ図や線分図、表などに整理してノートに書く活動やグループで説明し合う活動を取り入れる。	・通年 ・毎単元	
第5学年	(ア) 小数のわり算を正しく計算することに課題がある。 (イ) 文章問題で、正しく場面を把握して立式することに課題がある。	(ア) 割合の単元指導計画の中に、小数のわり算を復習する時間を設定する。 (イ) 問われていることを図や数直線で表し、明確にさせる。自分の考えをペアやグループで伝え合う機会を設定する。	・1月 ・毎単元	

第6学年	(ア) 四則の混合した計算や、小数や分数のかけ算・わり算などを正確に計算することに課題がある。	(ア) 答えに誤りがあったときは、答えを出すまでの過程を見直しさせ、どこをどのように間違えたのかを確認し、直す練習を繰り返す。	・毎時間 ・毎単元	
	(イ) 文章問題で、正しく場面を把握して立式することに課題がある。	(イ) 問われていることを図や数直線に表し明確にさせる。問題の解き方について、自分の言葉で説明する機会を多くもつ。	・毎時間 ・毎単元	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について		■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について	
1・2年生	デジタル教科書や学習アプリケーションを使って、具体物の操作や数のまとまりの操作を行い、自分の考えをまとめ、全体で共有し、意見交換を行う。	1年生	毎時間、学習のめあてをもたせ、学習の見通しをもつ。また学習の振り返りを行い、次の学習への意欲をもたせる。
3・4年生	授業の導入で学習アプリケーションを使い、既習事項の振り返りを行う。また、共有機能を使って、互いの考えから学び合い、考えを広げたり深めたりできるようにする。	2年生	めあてをもって学習に向かわせ、学習の終わりには分かったことや、難しかったことを振り返らせ、その後の指導に生かす。
5・6年生	学習アプリケーションのAIドリル機能を活用し、自分の力に合った問題に取り組める環境を作る。また、共有機能やコメント機能を活用して、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。	3年生	毎時間、学習の見通しをもつ時間を設ける。また学習の最後には学習の振り返りをワークシートに書かせる。
		4年生	毎時間、学習の見通しをもつ時間を設ける。また学習の最後には学習の振り返りをノートに書かせる。
		5年生	問題の把握とめあての確認を丁寧に行い、問題に正対した答え方を重点的に指導したり、めあてに対する振り返りができる「振り返りシート」を活用したりする。
		6年生	問題の把握とめあての確認を丁寧に行う。めあてに対し、具体的に振り返ることで、改善すべき課題を明確にできるようにする。

理科

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
観察や実験などに関する基本的な技能を身に付けること。	自然事象を理科の見方・考え方を働かせてとらえ、考えたことを表現すること。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	(ア) 実験や観察のための器具を正しく扱うことに課題がある。  (イ) 自分の予想や結果を表現することに課題がある。	(ア) 実験器具などを扱う時は、正しい使い方や、危険な使い方など指導する時間を必ず設ける。 (イ) 自分の考えを周囲と共有する場面を多く設定し、自分の考え方を表現させたり、他者の考えに触れさせたりする場面を設ける。	・毎単元  ・毎単元	
第4学年	(ア) 観察や実験の結果の記録の仕方に課題がある。 (イ) 観察・実験の結果を整理し、考察することに課題がある。	(ア) 観察の視点を板書したり、記録用にワークシートを活用したりする。 (イ) 考察は、「(結果)から、～と言える」という型を示し、複数の結果や、児童がもっている知識を関連付けて書かせる。	・毎単元  ・毎単元	
第5学年	(ア) 身近な事象を理科的に捉え、知識として身に付けることに課題がある。  (イ) 物事の原因について、考察する力に課題がある。	(ア) 理科をより身近に感じられるように、導入に時事的な話題を取り入れ、自然の事象・事象を自分事として捉えられるようにする。 (イ) 結果のまとめ方や考察をパターン化し、取り組みの見通しをもたせる。	・毎単元  ・毎単元	
第6学年	(ア) 予想を確かめるための観察や実験の方法を考えることに課題がある。 (イ) 観察・実験で得られた結果を基に考察することに課題がある。	(ア) 実験計画を立てる際に、多様性や共通性などの視点を示す。 (イ) 結果のまとめ方や考察をパターン化し、取り組みの見通しをもたせる。	・毎単元  ・毎単元	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 3年生 観察や実験したことを学習アプリケーションで写真や動画にまとめて記録する。記録したことをタブレット端末で共有し、意見を伝え合う。
- 4年生 実験の記録用紙をデジタル化する等、記録方法を工夫する。記録したことをタブレット端末で共有し、意見を伝え合う。
- 5年生 観察や実験の記録用紙をデジタル化する等、記録方法を工夫する。実験の様子を動画で撮影して共有し、考察の話し合いに生かす。
- 6年生 タブレット端末で調べたことの結果を学習アプリケーションで共有して感想や考えを伝え合う。記録用紙をデジタル化する等、記録方法を工夫する。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 3年生 観察や実験の前に、予想を立て学びの見通しをもたせる。学習アプリケーションに記録した内容を用いて振り返りを行う。
- 4年生 観察や実験の前に、予想や仮説を立て学びの見通しをもたせる。学習アプリケーションに記録した内容を用いて振り返りを行う。
- 5年生 体験や学んだことから学習の見通しをもち、自ら考えた実験方法を検証し、次時につなげる。学習アプリケーションに記録した内容を用いて振り返りを行う。
- 6年生 体験や既習事項から学習計画を立て、学習の見通しをもたせる。自ら仮説を立て、実験や観察の方法を考えることを大切に、主体的に推論しようとする意欲をもたせる。学習アプリケーションに記録した内容を用いて振り返りを行う。